

いもう 葦毛通信



平成 30 年 7 月 26 日
 豊橋市文化財センター
 豊橋市松葉町 3 丁目 1
 TEL: 0532-56-6060

No. 67

バイケイソウ

1、平成 29 年度葦毛湿原の動物調査

昨年引き続き、2018 年の 3 月末までの一年間、自動撮影カメラによる動物の定点観察を行いました。平成 29 年度の撮影回数は延べ 68 回でした。平成 28 年度は 147 回でしたので、撮影回数は約半分に減少しました。これには、二つの要因が考えられます。

第 1 は 6 月の撮影回数がゼロ回になっていますが、この月はセンサーカメラの受光部にクモが巣を作り白くなっていたのに気が付きませんでした。クモの巣の影響で撮影ができなかったのが原因です。前後の月を参考にとすると 6 月は少なくとも 10 回程度は撮影できていたと思われます。

第 2 はカメラを設置している二の沢の切り株からヒコバエが伸び、草が成長し、見通しが悪くなっているために、動物の侵入が少なくなったことが考えられます。平成 28 年度は木を伐った直後で見通しの良い草地という状況でしたが、この状態が、動物にとって活動し易い環境だったことがわかりました。

番号	種名	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	ニホンイノシシ	15					3	1	7		1	2	1	
2	ニホンノウサギ	31	5	11		3	4	1	1				4	2
3	ホンドタヌキ	12				1	4	2	3			1	1	
4	ホンドキツネ	1						1						
5	ハクビシン	4							1	2	1			
6	ニホンイタチ	2	2											
7	ホンドテン	0												
8	ニホンリス	0												
9	ニホンアナグマ	1				1								
10	キジバト	0												
11	コジュケイ	0												
12	シロハラ	0												
13	ニホンカモシカ	1									1			
14	ハシボソガラス	1		1										
15	ハシブトガラス	0												
	合計	68	7	12	0	5	11	5	12	2	3	3	6	2

表1 種別撮影回数一覧表

1、調査方法

平成 29 年度は、二の沢の T 地点で引き続き撮影を継続しました。撮影方法はこれまでと同じで 24 時間自動で写真と動画撮影を行っています。実施期間は、前年から継続し、2018 年 3 月 31 日までのデータです。

撮影は、昼間はカラー、夜間はモノクロになっています。これは、夜間撮影時にカラー撮影するためには、フラッシュが必要になるので動物を驚かさないようにして、継続して調査をするためです。

2、調査結果

平成 29 年度は延べ 68 回撮影されました。内訳は表 1、図 1・2 の通りです。前年度の平成 28 年度（葦毛通信 No.52）と比較して撮影回数は約半分に減りました。全体の傾向としてはほぼ同じですが、若干異なる点が見られます。

まず、平成 28 年度は 6 月の 20 回がピークで、4～10 月が最も多い時期でした。前半は撮影回数が多かったのですが、11・12 月が各 1 回ずつしか撮影されず極端に回数が減ってしまいました。

平成 29 年度は全体に撮影回数が少なくなっていますが、全体としては昨年と同じように 4～10 月が多く、11～3 月の冬季に少なくなっています。

撮影された動物の種類で最も多いのは、ニホンノウサギで 31 回（46%）撮影されました。昨年は 76 回（52%）だったので、回数は減りましたが、割合はほぼ同じです。ニホンイノシシは 15 回（22%）で昨年の 18 回（12%）から割合は約 2 倍に増えています。この 2 種類で全体の 68% になります。昨年とほぼ同じような割合です。

これ以外は、ホンドタヌキは 12 回（18%）で約 2 倍に、ホンドキツネ 1 回（1%）・ハクビシン 4 回（6%）でほぼ同じ、ニホンイタチ 2 回（3%）・ニホンアナグマ 1 回（1%）・ニホンカモシカ 1 回（1%）は半減しています。

ホンドタヌキが増えています。全体的な傾向としては昨年とほぼ同じような状況です。

平成 26・27 年度は E 地点の水量の多い沢沿いの段丘端部に設置し、平成 28・29 年度は水量の多い沢から離れ、木を伐採して開けて明るくなった二の沢に設置しました。水量の多いところの近くではイノシシが多く撮影されましたが、水量の少ない沢の近くでは、見通しの良い開けた環境になり、ノウサギが多く撮影されました。

平成 29 年度は、平成 28 年度と比べて撮影回数が減りましたが、撮影された動物の種類

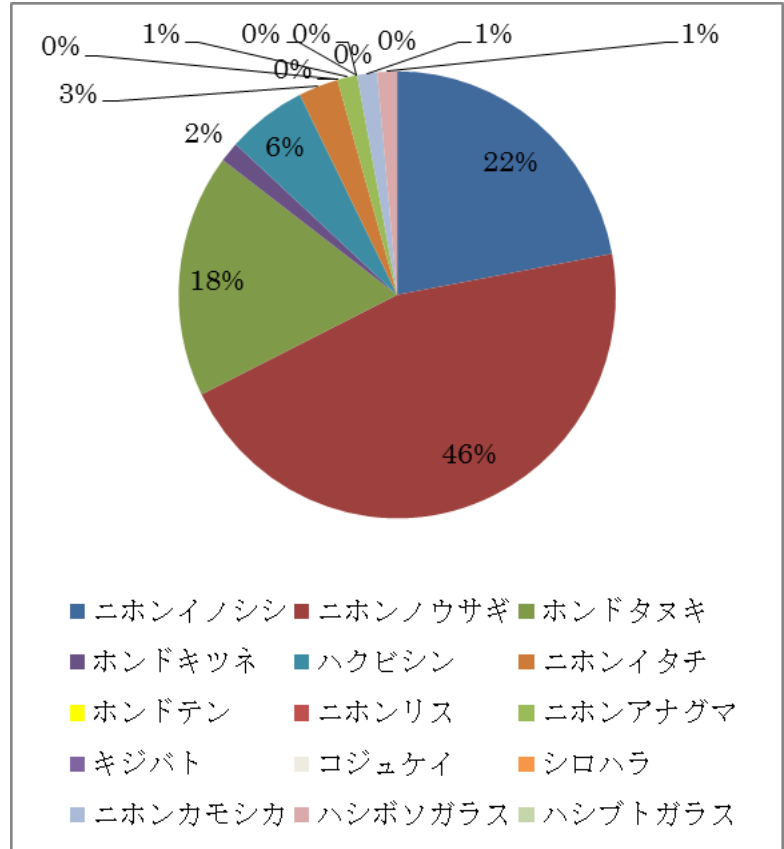


図 1 種別撮影回数割合

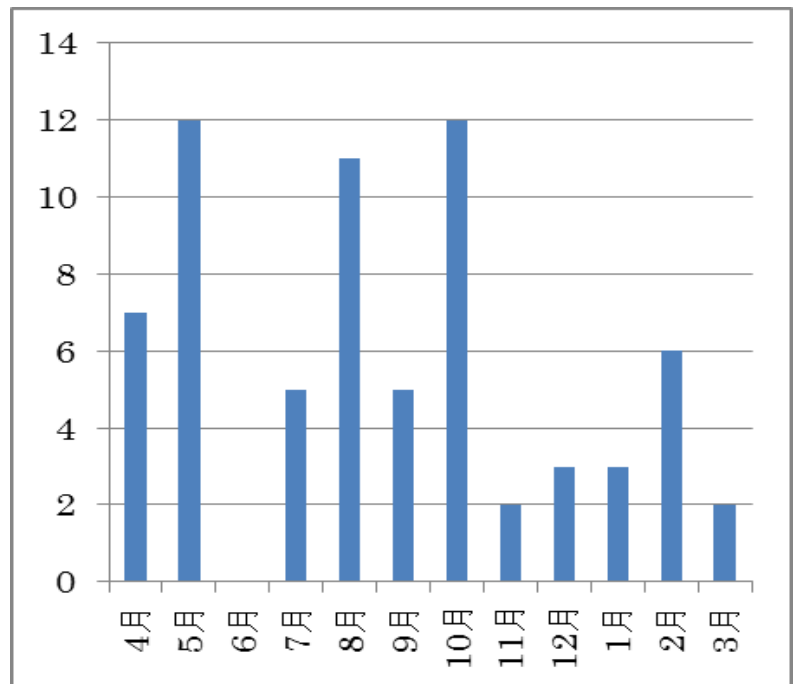


図 2 月別撮影回数

や割合に大きな違いはないようです。平成 30 年度も継続して撮影していますが、二の沢では、さらにヒコバエが成長して見通しが悪くなっています。今年はさらに撮影回数が減る可能性があると思います。



イノシシの親子 (2017 年 10 月 10 日)



イノシシ♀ (2017 年 8 月 22 日)



ニホンノウサギ (2018 年 3 月 25 日)



ニホンカモシカ (2017 年 12 月 17 日)



ホンドタヌキ (2017 年 7 月 13 日)



ホンドキツネ (2017 年 9 月 18 日)

2、イノシシの防御実験ー2

葦毛通信 No. 60 にイノシシの防御実験を始めたことを報告しました。昨年(2017年)の12月5日にテグスを張って様子を見ていましたが、一定の効果はあるようです。テグスを設置したのはB・C・G・K地点を囲む約60×25mの範囲、I地点の一部の約40×20mの範囲、N地点の一部の約20×10mの範囲の3か所です。これらは湿地中心部で大きくかく乱されていたところでした。

このうち、テグスを切られたのは山側を大きく囲ったB・C・G・K地点の1か所のみです。

設置したテグスは11回切られ、その都度補修しました。1～9まではB・C地点で、いずれも南側の山側からイノシシが侵入しようとしたものと思われます。

テグスは切れていましたが、湿地内に侵入した形跡はありませんでした。おそらくイノシシは驚いて侵入をあきらめて逃げたものと思われます。

10・11に関しては、いずれも木道沿いのテグスが切られており、周辺にはイノシシの足跡がなかったため、人為的な切断の可能性が高いと判断しています。モウセンゴケやトウカイモウセンゴケが開花していたところなので、撮影の邪魔になったためと思われます。

イノシシの侵入はこれまで少なくとも3回確認されています。2月24日にI地点南西端から侵入したようですが、テグスは切られていませんでした。木道の上からジャンプして湿地内に侵入したようです。木道沿いは両側に支柱を立ててロープが張ってありますが、テグスはこのロープの下に設置してあります。イノシシが木道上にいた場合、鼻先はちょうどロープの位置に来てテグスに触れず、飛び越えてしまっていると思われます。

B・C・G・K地点では、5月1日以後は南側(山側)のテグスは切られていませんが、2回イノシシの侵入がありました。5月19日にはK地点北側の木道から侵入したようですが、ロープを飛び越えたようです。イノシシのかく乱は限定的でした。7月15日はB地点北側の木道から侵入したようです。右写真中央の狭い裸地の部分がかく乱されたところでした。木道沿いのロープを飛び越えたものと思われます。

いずれの場合もかく乱は限定的で、昨年のように広範囲に何度もかく乱されるという状況ではありません。

テグスによるイノシシの防御は、山側からの侵入に対しては一定の効果がありました。しかし、湿地内部に設置した木道側からの侵入に対しては十分な効果は無いようです。イノシシの侵入は山側からが中心で、山中の林道を動物が利用するのとは異なり、木道の上を歩いて移動している割合は低いと思われます。しかし、イノシシがこの状況に慣れれば、木道側から侵入を繰り返すことになるかもしれません。今後も観察を続けるつもりです。

テグスを補修した回数

回数	日付	場所	本数
1	12月14日	B地点南西隅	1本
2	1月12日	C地点中央	1本
3	1月31日	B地点南西	1本
4	2月10日	C地点中央	2本
5	2月16日	C地点中央	1本
6	3月28日	B地点南中央	1本
7	3月28日	C地点東側	1本
8	4月5日	B地点南西	1本
9	5月1日	B地点南西	1本
10	6月4日	K地点北側中央	1本
11	7月1日	K地点北側東	1本



イノシシによるかく乱(2018年7月15日)
下端中央に木道の丸い支柱の頭が見える。